

令和5年度 第1回 成田市精神保健福祉推進協議会 会議録

1 開催日時 令和5年7月5日（水） 午後2時30分～午後3時30分

2 開催場所 赤坂ふれあいセンター 大会議室

3 出席者

(委員) 佐藤委員、佐久間委員、太田委員、嶋崎委員、橋本委員、
中村委員、山田委員、松島委員、井上委員、鈴木委員

(欠席) 鈴木委員、中里委員

(幹事) 藤巻幹事、山田幹事、佐藤幹事、西野幹事、坂田幹事、
佐々木幹事、穎川幹事、大島幹事、

(事務局) 米本部長、若山課長、前田係長、飯田副主査、林主任主事

4 会長挨拶

5 福祉部長挨拶

6 委嘱状の交付

白田委員と猿田委員が異動に伴い退任、松島委員と鈴木委員が残任期間を務める。

7 会長・副会長の選出

会長選出までの議事進行は、事務局が行った。

会長・副会長は、委員互選の結果、次のとおり選出された。

会長…佐藤委員

副会長…佐久間委員

8 議事（要旨）

○報告第1号 令和4年度精神保健福祉の現状について

佐久間委員：精神保健福祉手帳所持者と自立支援医療制度の関係であるが、増加している。精神障害者医療費助成の実人数（P3）と、違う数字なのか。

事務局：自立支援医療制度を利用していても、市の医療費助成を全員が使っているわけではないため、人数に変動がある。

佐久間委員：（P3 資料下の方に）重度心身障害者の支援はしているが、入院患者数は数

字に挙がってこない。自立支援医療は 2,066 人、医療費助成については 780 人と数字に差があるが、これは入院している人の数字か。

事務局：医療費助成は、（精神保健福祉手帳所持者で）自立支援医療を利用し通院した 1 割負担分を成田市が助成している。

会長：請求してない人はいるのか。

係長：都度請求する人もいれば毎月請求する人もいる。請求していない人もいる。

佐久間委員：自立支援医療制度を利用している人が 2,066 人。対して手帳を所持している人が 1,455 人。600 人位は手帳を所持していないことになる。自立支援医療は受けているが、手帳は所持していないのか。成田市は他の市町村より手帳所持者がとても多い。大都市は 70% 位所持している。今回の数値を見ると、手帳を申請していない人が多くいると思うと強く感じた。千葉家連でも手帳取得の PR をしている。病院と関係機関については別途、資料をお持ちしたい。加えて、市では居住体験支援事業を整備しているが、昨年は利用実績がゼロだった。コロナ禍の影響もあるかもしれないが、利用者が少ない状況である。1 週間利用するにしても利用者 1 人だけで、電話対応だと不安に感じる。生活については、利用者がいるときだけでも職員が対応できるような、一緒にいて指導できる体制を配置できないか。人件費がかかるかもしれないが、その辺は考えていないか。出来るだけ利用しやすい状況におくことは必要かと思う。また PR についても考慮したらどうかと思います。

会長：世話人がいない所で、ぽつんと居住体験をするのは不安だと思う。前から話しているが、誰も居ない所に行って、居住体験といえるのか。

佐久間委員：最近できたグループホームで、入る前に 1 週間とか 2 週間とか体験する形でやっているところは多くある。その影響もあり利用する人数が減ってしまうのかなと思う。そうすると、この事業の意味をなさなくなってしまうため、利用して欲しいと思う。

事務局：利用中に相談事があった場合には、相談支援専門員に電話をつなげられるようになっている。そのほか、市の電話番号も伝えている。孤独感や困りごとがあった際に、全く相談ができないような体制にはなっていない。本当に一人暮らしを考えている人にとっては実際に体験ができる場所になっている。

会長：グループホームで世話人がいる所があるので、一人暮らしは一人で不安だから辞めようとなってしまうこともある。そこに居てほしいということだと思う。

橋本委員：今年度、一人受けた方は当グループホームに入っている方。60 代超えてこのまま GH で生きていくと、自分の人生においてやり残しがあると感じ、

一人暮らしをして人生にやり残しがないようにしたいとの思いがあった。本当に出来るかどうか、何十年と病院かグループホームにしか居ないため、一人で過ごせるか試してみましょうと今回試させて頂いた。本人はグループホームから退去するかしないか揺れながら、県営住宅に応募したり、主治医と相談したりしながら調整中である。グループホームから一人暮らしに移行する方にとっては良いと思います。

会長：そういう人いるかもしれないが、一般的でないと思う。つまり、グループホーム自体が、病院から地域や本格的に一人暮らしをする前の中間的な形態である。まずは長期入院している人が地域で暮らすために、支援者がそばにいる中で暮らしてみると、人が居るところでの支援をする必要があると思う。上手くいかないと、一種のトラウマになってしまう可能性もある。この辺はもう少し考慮が必要だと思います。建物を確保して、踏み出したことは認めるが、もう少し利用する人の立場に立った運営をしていかないといけないと思う。

佐久間委員：関係者しか周知していない状況もある。もう少し広く知ってもらえるように周知してもらえたたらどうか。

会長：グループホームはいくつかできてきてる。空き部屋を活用するなどして、もう少し検討してもいいのではないか。計画相談支援、就労継続支援B型やグループホームは増えてきている。地域で生活する人が増加しているということは、この数字が物語っているかなと思う。

中村委員：こころの健康相談（P5）について教えてもらいたい。同ページに医師による相談、カウンセラーによる相談とあるが、マスコミや新聞等を見ると、心に悩みを持った方が沢山いらっしゃる報道が出ている。この利用者数が多いか少ないかは分からぬが、私の近所でも引きこもりの方がいるが、段々高齢化している。例えば、医師やカウンセラーによる相談があることを上手く伝えて、相談に繋がるような方策はどのようにされているのか。

事務局：どの事業も広報を利用したり、ホームページ、公民館や商業施設にポスターを掲示しているが、それだけではなかなか目に留まらないこともある。昨年あたりから広報なりたのライン配信をすることでかなり目に留まるようになった。また、地域紙（エリート情報）もかなり有効である。コロナも落ち着いてきたからか、予約も増えている。

中村委員：色々な方法で周知をしていると思うが、どこにも相談できず悩んでストレスを抱えている方をいかにキャッチして相談につなげるか、見てない方もいらっしゃるでしょうから、色々な方法をもっと取り、相談に繋げてやっていった方がよいと思う。実際に受診勧奨以外の人の通院や手帳の取得が増えており、ニーズはもっとあるのではと思う。

会長：広報なりたには毎月掲載しているのか。

事務局：毎月掲載している。

会長：回覧板に織り込んだりしないのか。毎月入れる必要はないが、年2回位でも織り込んで、「やってますよ」ということをやってみてもいいのではないか。保健所の精神保健相談はいかがか。それはどんな風に広報しているのか。

鈴木委員：保健所便り、ホームページに掲載している。保健所の相談は各関係機関からのご紹介が多い。

松島委員：障害福祉サービス支給決定数（P4）で、R3実績とR4実績を比べると、計画相談が90名ほど増えている。相談員は増えているのか。相談員が増えているような状況にあるのか。

事務局：事業所数は昨年度増えている。人数増加に関しては、事業所数に比例して増加していないかもしれないが、事業所数が増えているのは間違いない。

鈴木委員：地域移行支援（P4）のR4年度実績が8名は素晴らしい。コロナが落ち着いたこともあるが、他に8人も増えた理由はあるのか。

事務局：コロナが明け始めたのもあるが、グループホームが増えていることもあり、地域移行後に利用している方が増えている印象がある。

○報告第2号 令和4年度相談支援の状況について

会長：P9の表の人数は、P6の人数と合わない。

事務局：P9とP6の表の統計の仕方は多少異なっているため、同じ数にはならない。行政報告として同じ分類で相談数をまとめていくと、精神の抜粋にはなるが7,000件程の延べ相談支援数になる。

佐久間委員：生活支援に関する支援や相談があるが、どのような相談か。自立生活したいが、まだ至らないので、生活訓練に関する技術指導や訓練をしたいとか、そういう相談か。

橋本委員：委託相談の中での話になるので、どちらかというと例えば調理が上手くできない等の生活相談が多い。不便だとヘルパーさんが入るとか、計画相談の相談に入る。沢山相談を受けている中で様々な種類の相談があり、様々な相談を一つの機関で沢山受けているのが現状です。

○議案第1号 令和5年度事業計画について

会長：社会資源整備検討部会については昨年度は1回も開催できず。フォーラムやフェアも去年はオンラインで実施した。今年度のメンタルヘルスフェア成田はハイブリッド形式でやるのか。

事務局：市役所内でしたらハイブリッドで実施する。

会長：いずれも実開催を中心として行う。また、今後の感染の状況によっては変更の余地があるかもしれない。

山田委員：精神障害者のピアサポート養成講座は令和3年度後半から始めたが、かなり興味を持っていただいている。ここ5回開催した中で、延べ約1,000回位の視聴があった。参加者については、成田市民は当然のことながら成田市民以外の、千葉県以外の全国から参加をいただいている。市と更に協力して配信をしていけたらと思う。

佐久間委員：成田市を含め全国的に共生社会といった重層的支援という形で、将来的には（枠が）なくなつて欲しいなと思う。行政機関も、現在はかなり縦割りの形となっているが、ある程度縦割りの形を変えて全般的に障害者、高齢者あるいは児童というような枠を取つ払い見ていくような社会がよいのではと思う。

会長：障がい者も一般の人も何もないのでは、わざわざ分ける必要がないという意見もある。例えば、障がい者の中で、精神障害、知的障害と身体障害と分けているが、分けるのではなく3障害と一緒にやっていこうという動きもあるが、それぞれ特性もある。そうすると、取り残されてしまう人が沢山いる。そうなると、一緒にやる面と、個別に障がい者に対してきめ細かく特性に応じた支援が必要という面もある。それを組み合わせないとなかなか共生社会は難しいと思う。

佐久間委員：提案ではなく確認だが、この協議会が「精神障害にも対応した地域包括システムの構築」ということで、それぞれ各市町村が検討されていくと聞いている。この協議会の中で、地域包括システムについての具体的な話を聞いたことがない。そのため、どうなっているのか、これからどういう形で進められていくのかを教えて頂けたらと思う。

鈴木委員：印旛保健所を会場としてやらせて頂いている。国は各市町でも、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場を各市や町でやりなさい、ということしている。わたくしの理解では、成田市はこの推進協がその協議の場であるという認識だったが、どうなのか。

事務局：精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を、ということで、この協議会は生活支援拠点のことも話し合っていく、ということが提案されていたかと思います。昨年度まではコロナ禍で社会資源整備検討部会が開催できなかつたこともあり、今後の検討事項かと思われる。仕組みとしては、協議会から幹事会、社会資源検整備討部会へと議題を提案し検討する。討議が終了したものを、部会から幹事会と協議会へ結果を報告し、再度協議をしていく。

会長：協議会でも検討すると言っているが、会は形式的なものとなっている。も

う少し自主的な協議を行っても良いかと思っている。幹事会や社会資源整備検討部会で話題を出してもらい、そのような話題についてどのように進めるか検討してもよいのではないかと思う。

鈴木委員：補足だが、各市町で協議の場をそれぞれもっている。にも包括のテーマはかなり多く、どのテーマを選ぶかは各市町が選び重点的にやっていく。例えば、ある市はケアサポートの活用を重点的にやっていく、家族支援をやっていくなど。成田市の報告を伺っていると、社会福祉協議会がピアサポートに関してはかなり力を入れている。成田市の居住支援は全国的に珍しい取り組みである。他の市や町と比べて、成田市はかなりメンタルヘルスに関しては活動されている印象がある。先ほどお話を伺って、にも包括の具体的な取組は、今後は部会で拠点のこと等を話されるそうなので、そこが具体的な協議の場としていくのかなと思う。

会長：地域で生活するために、具体的にどのような取り組みが必要で、どのような点が足りないかを詰めた協議は行っていないため、今後は少し話題にしても良いのかなと思う。

山田委員：現在は保健福祉館が工事中で利用できないため、ピアサポート一養成講座はオンデマンド配信になっているが、来年になり工事が終了したら参加型で出来ればと考えている。

会長：他にご意見がないようでしたら、以上を持ちまして、協議会の議事につきましては全て終了いたします。ありがとうございました。

9 その他

精神保健福祉フォーラムは受付中。会場準備の都合上、開場は15分前から。

10 傍聴者

3名

11 次回開催日

令和5年10月25日（水）14時30分～を予定。